

第5章 施術前の安全確認とカウンセリング実務

5-1 安全な施術はカウンセリングから始まる

エステティックサービスにおいて、カウンセリングは単なる施術内容の説明やコース提案のためだけに行われるものではありません。

カウンセリングの本来の目的は、顧客の希望や不安を理解するとともに、安全に施術を提供するために必要な情報を把握することです。

エステティックは、顧客の身体に直接触れるサービスであるため、施術技術と同様に、事前の確認と適切な判断が重要となります。安全管理は、施術を開始してから行うものではありません。顧客来店時健康状態の情報取得と確認ができ、心身の状況を見極め、心身の観察をしながら美容施術の効果とリスクの説明を行い、施術選択と実施の判断という一連の過程が適切に行える能力を持つことがエステティックカウンセラーとして評価されます。この技能を維持できることが社会的信頼に繋がります。

Case Study

「美容医療を受けた後にエステを希望された場合」

事例

30代女性が来店されました。

数日前に美容医療による施術を受けたとのことで、

「肌を整えたいので、いつものフェイシャルを受けたい」

と希望されています。

エステティシャンはどのように対応すべきでしょうか。

考えてみましょう

美容医療後の肌状態は、施術内容や個人の状態によって異なります。

エステティシャンが医療行為の内容を評価したり、施術後の経過を医学的に判断したりすることはできません。

重要なのは、

- ・どのような施術を受けたのか
- ・いつ受けたのか
- ・医療機関から注意事項を受けているか
- ・現在の肌状態に問題がないか

を確認し、安全性を慎重に判断することです。

適切な対応例

「美容医療後のお肌は通常とは異なる状態の場合がありますので、医療機関からの注意事項を確認させていただいた上で、施術についてご相談させてください。」

Point

- ☐ 美容医療後は通常の肌状態とは異なる可能性がある
- ☐ 医療的な判断は行わない
- ☐ 安全性が確認できない場合は施術を見合わせる
- ☐ 必要に応じて医療機関への確認を勧める

5-2 カウンセリングで確認すべき基本事項

安全な施術提供のためには、以下のような情報確認が重要です。

① 体調・健康状態

- ・発熱や体調不良の有無
- ・疲労状態
- ・体調変化

身体状態によっては、施術による負担が大きくなる可能性があります。

② 既往歴・治療状況

確認例：

- ・現在治療中の病気
- ・通院状況
- ・服薬状況 ・生体内留置金属の確認

ただし、確認の目的は病気を判断することではなく、安全性を確保することです。

③ 肌状態

確認例：

- ・赤み
- ・かゆみ ・ぶつぶつ
- ・炎症
- ・傷
- ・腫れ

肌に異常がある場合には、状態によって施術を控える判断が必要です。

④ 禁忌事項

心臓ペースメーカーや除細動器が留置、あるいは生体内留置金属（インプラント、人工関節、ボルト、プレート、金の糸など）がある場合、機械施術には強い制限や禁忌事

項が設けられていますので顧客からの情報確認を怠ると事故に繋がります。禁忌事項は単なるチェック項目ではなく、顧客の安全を守るための重要な判断材料です。

5-3 「できること」と「できないこと」を明確にする

エステティシャンに求められる重要な能力は、すべての希望に応えることではありません。

専門職として必要なのは、

「安全に提供できるサービスか」

を判断することです。

例えば、

できること

- ・肌状態を確認する
- ・施術前の注意事項を説明する
- ・使用する化粧品や機器について説明する
- ・美容目的のケアを提案する

できないこと

- ・病気の診断
- ・治療方針の決定
- ・医学的効果の保証
- ・医療行為に該当する処置

この区別を明確にすることが、顧客の安全につながります。

5-4 記録を残す重要性

カウンセリング記録は、顧客との信頼関係を維持し、安全管理を行う上で重要な資料です。記録すべき内容として、

- ・来店日
- ・相談内容
- ・心身の状況（肌状態・身体状態）
- ・施術内容
- ・注意事項の説明内容
- ・顧客の同意確認
- ・施術後の状態
- ・施術後のケアについて・

などがあります。

記録は、顧客を管理するためのものではありません。記録を習慣付けることにより顧客情報をサロンで共有することができ、顧客とのトラブル回避、安全なサービス提供

を継続することができるのです。

5-5 本章のまとめ

安全なエステティックサービスは、優れた技術だけでは成立しません。
適切なカウンセリング、安全確認、説明責任、そして必要な場合に施術を見合わせる
判断。これらすべてが、専門職としての重要な役割です。